

月号

題字デザイン 桑山弥三郎

世界の若者と日本マンガと碁

海外囲碁普及を始めたのが一九七四年。それから三〇年以上の歳月が過ぎた。その間に碁は世界に広まるだけではなく、プロレベルでも中国、韓国、台湾が実力をつけて日本だけの碁からアジアの碁、世界の碁に成長。長年碁を通じて世界を回っているが、この数年の世界の若者たちの『マンガ』から始まった『クール・ジャパン』の流れはすごい。

日本でも子どもたちにちよつとした社会現象を起こしたマンガ『ヒカルの碁』が仏語、英



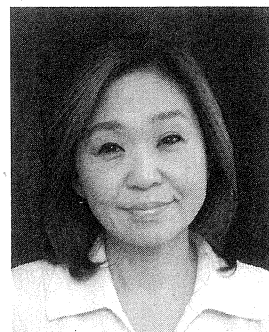
テレジニシュ・アカデミイ学校囲碁部での指導

語、独語などに訳されたおかげで海外ではマンガイベントと碁は合体している。このマンガが出る前『碁』は欧米のインテリ層、または日本文化最前線の間で嗜まれていたが、今は世界のマンガファンの若者が主流になってきた。そのうえ、碁を始めて数年の青少年たちがもう何十年も碁を嗜んできたインテリ層を盤上で負かし始めている（負かされ始めた大人たちは、まだこの現実を認められないようだ）。こんな状況のもとで文化交流使の立場でウィーンを拠点に今年三月から欧州で囲碁指導をしている。

現在三つの学校に囲碁部を立ち上げ、週二回の講座、そして、欧州初の会員制囲碁サロンオープンのために準備をしている最中。週末には欧州のいろいろな国の大会にも足を伸ばすので、東京にいたるとき以上の忙しさである。拠点をウィーンにした理由は、国連機関を有する国際都市であること、日本マンガブームがドイツ語圏内に広がってきていること、そして、歴史的に芸術、音楽を保護してきたウィーンで、日本文化の中で育まれた碁を若者たちに紹介するだけでなくじっくり教えてみたいと考えたことからだ。

一〇月から碁を教え始めたマリア・テレジ

囲碁棋士 小林千寿



プロフィール

1954年生まれ。4歳よりアマ五段の父から囲碁の手ほどきを受け、6歳で木谷実九段に入門。1972年（財）日本棋院に入段（初段）、1977年五段に昇段。女流本因坊3回・女流鶴聖3回・棋道賞受賞。ヨーロッパ各国、北米、アジア等、30か国以上において、海外囲碁普及に取り組んでいる。2007年3月～2008年3月（予定）まで、文化交流使として、ヨーロッパで活動。

アゆかりの私立中・高校の教育長は、新しい碁石を一つずつ拭いて碁^ご碁^ごに入る作業や、碁石や碁盤の材質が違ふと碁を打つときに響く音が違ふことに興味をもっていた。日本が碁の勝負だけにこだわらず、道具にもこだわってきた文化を評価いただき、それが、由緒ある私立校の校風と合っていると判断されたようだ。

マンガファステバルのテレビ取材で使われた言葉は『碁は平和的なゲーム』であった。若者たちの日本マンガへの情熱は、日本人から見ると過度とも見えるが、自分で縫った着物、衣装に身を包んだ若者たちの『日本ダイスキ!』の無邪気な笑顔に和まされる。

◆長官対談◆

【文化の交差点】青木保文化庁長官対談
渡辺貞夫 ジャズサックス奏者
【長官コラム】青木保のカフェ・アオキ

◆特集◆

日本のメディア芸術

【有識者提言】

日本のメディア芸術

【施策紹介】

メディア芸術振興に向けた取組

【事業紹介】

平成一九年度「第一回」

文化庁メディア芸術祭受賞作品

【報告】

シンポジウムレポート「世界のメディアアート」

【事業紹介】

平成一九年度「第一回」

文化庁メディア芸術祭受賞作品展のご案内

◆文化庁ニュース◆

天然記念物の樹木の保護を支援

【敬語の指針】答申説明会

ほか

◆連載◆

【いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート】

宮城県美術館

【芸術文化の風】

コンサートホールで楽しい出合いを

【著作権Q&A】著作権なるほど質問箱から

授業の同時中継

【言葉を見つめて】

【ことば（国語・日本語・言語）について答える

【伝建地区を見守る人々 伝建歳時記】

高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区等（岐阜県）

【天然記念物の保護管理の現状】

【木下貝層】の保存と活用（千葉県印西市）

【広げよう「文化力」の輪！】

【本網都市「江戸」に学ぶまちづくりの再設計に向けて

【こどもの文化体験】

【日本の伝統美と技を守る人々】

【奥山喜蔵（雅号 奥山峰石）・鍛金

【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】

【金銅鳥形飾金具

【祭り歳時記 伝承を支える人々】

【文化交流使の活動報告】

三浦友馨・華道家

【文化でまちづくり 明日への文化振興ビジョン】

【鹿兒島県文化芸術振興指針

【近代建築のある風景 活用】

盛岡の銀行物語

編集後記

今月号の特集には、「美術館・博物館の振興」を取り上げました。

今年度からスタートした「芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想の推進）」については、ユニークな取組の事例を四人の方に紹介していただきました。地域に溶けこんだ館の活動がよく伝わってきます。また、文化庁が行った全国の公立美術館・博物館の組織・運営状況の調査結果の概要を掲載しました。現在の美術館・博物館の姿を知るうえで参考に

なれば幸いです。

地域に伝えられた歴史を理解し、さまざまな文化芸術活動を発信するうえで、美術館・博物館にはより大きな役割が期待されるところです。美術館・博物館を取り巻く厳しい環境の中、地域と共に生き、多くの国民や住民の方々に理解を深めていただく活動を重ねることが、これからの美術館・博物館の充実発展のために大切だとあらためて感じました。

(K・S)

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、

A 国立国際美術館
「30年分のコレクション」
2組（ペア）

B 東京国立博物館
「宮廷のみやび
—近衛家1000年の名宝—」
2組（ペア）

C 京都国立博物館
「仏師清水隆慶」2組（ペア）
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、12月25日（火）までにご投函ください（当日消印有効）。

*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

<http://www.bunka.go.jp>

文化庁月報 12月号（通巻471）

平成19年12月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03（3571）2126

販売 03（5349）6666

URL：http://www.gyosei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

（株）ぎょうせい営業部広告課

電話03（5349）6657（ダイヤルイン）

©2007 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。